

○議長（高橋正博君）

4番 三木俊明君。

○4番（三木俊明君）

4番三木です。通告書に従いまして2点質問いたします。

まず冒頭に、このコロナ禍の中、日々集団接種、個別接種に携わっていただいている、すべての医療従事者、関係職員の皆さまに感謝を申し上げます。大変なご苦勞であると思いますが、引き続きよろしくお願ひしたいと思っております。

それではまず1点目、第7次総合計画策定についてであります。今、日本中の自治体は急速な少子高齢化、財政の逼迫に加え、新型コロナウイルス感染症という今までに経験したことのない状況に遭遇し、社会の在り方、人々の生活に大きな変化が起り、その対応に追われております。一方住民は行政が行う政策にただ受け入れ、耐え忍んでいるのが現状ではないでしょうか。

そのような危機的状況の中、来年度は第7次総合計画策定予定の年にあたります。総合計画は町の計画の最上位に位置付けられており、基本的理念や基本構想など全ての政策の基礎となるものでございます。わが町では平成24年度に第6次土庄町総合計画を策定し、平成25年度から令和4年度までの10年間の計画を「きらめきプランとのしょう」として公表しております。令和2年3月には中長期的な町の在り方について「土庄町グランドデザイン」も策定しております。

10年ひと昔と言いますが、今は5年ひと昔ぐらいになりますけども、今、社会生活の急激な変容は第6次総合計画策定時には、想像もしえなかったものであると思われまふ。しかし、我々の大半はこの町で生活をし、生きていかなければなりません。このようなときだからこそ、時代の変化を意識し、その変化にどのように対応し、より良い土庄町を目指すにはどのような政策を策定し実行していけば良いのか。今、町民とともに考える最大の機会であると捉えるべきではないでしょうか。そこで4点質問をいたします。

まず、1点目、本格的な計画作成は来年度になると思われまふが、今までに第6次計画で計画されたもので、計画どおりに実施され、その検証・評価をしたものはありますか。また、現時点における全体計画の達成度をどのように評価しておりますか。お伺ひいたします。

○議長（高橋正博君）

企画財政課長 鳥井基史君。

○企画財政課長（鳥井基史君）

三木議員のご質問にお答えいたします。初めに町が策定しております、総合計画、総合戦略、グランドデザインの関連について説明させていただきます。

現在の第 6 次土庄町総合計画は、町の最上位計画と位置づけ、これに基づき施策を展開しております。

総合計画の基本部分であります「基本構想」については、地方自治法の規定により議会の議決を経て定めることが義務付けられておりましたが、平成 23 年、国が進める地方分権改革のもと、法改正により基本構想の策定義務が廃止され、策定及び議会の議決を経るかどうかは自治体独自の判断に委ねられることになりました。

前期の第 5 次土庄町総合計画は、策定義務の廃止が決定された直後に 10 年の計画期間の終了を迎えることになりましたが、当時の判断により今期の第 6 次土庄町総合計画を独自に策定いたしました。

その後、平成 26 年に「まち・ひと・しごと創生法」が制定され、人口減少時代に向けた地方人口ビジョン及び地方総合戦略の策定が努力義務化されたことに伴いまして、当町においても国の指針に基づいた 5 カ年計画であります「土庄町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を平成 27 年 3 月に策定をいたしました。

三木議員もご存じのとおり、総合計画は、施策の大綱を示す基本構想、分野別に定める基本計画、具体的に実施する事業を定める実施計画で構成されておりまして、基本構想及び基本計画は議決事項として、定性的な目標を設定した上で、中間年での修正を可能としております。

また総合戦略は総合計画を最上位計画とし、その方針を反映させた定量的な目標を設定しており、施策の推進及び進行管理のため設置された「土庄町まち・ひと・しごと創生総合戦略会議」において、毎年効果・検証が実施されております。一方でランドデザインは公共施設の再編や各地区、町全体の将来像を見据え、おおむね 10 年後から 30 年後の長期的、総合的な視点で取り組むべき地域課題に対する事業等を示すため令和 2 年 3 月に策定をいたしました。このような中、三木議員のおっしゃるとおり、目まぐるしく変化する社会情勢を背景に、効果的な施策を展開していくためにも、計画の在り方について改めて検討する必要があると考えております。

また、次期の総合計画の策定につきましては町長の方針も大きく影響するため、町長選挙を控える当町におきましては、先ほど申し上げました現在策定しております計画等の状況や町長の意向も踏まえ、来年 1 月以降に判断いたしたいと考えております。

このような中、今期の第 6 次土庄町総合計画の達成度評価につきましては、基本計画に基づいた事業別予算を導入し、予算編成、予算査定時に 3 年間の実施計画をローリング方式により見直すとともに、決算特別委員会及び監査委員により事業の検証・評価をいただき、その結果を踏まえることにより PDCA サイクルを確立しているものと認識をいたしております。

○議長（高橋正博君）

4番 三木俊明君。

○4番（三木俊明君）

ありがとうございます。改めて言うのもいかなものかと思いますが、計画は策定することが目的ではなく、実現、達成することが本質であります。そのため、計画の策定、実施、検証、評価、改善、いわゆる PDCA サイクルを再認識して進めていただきたいと思います。また、検証評価の点では、積極的に外部評価を取り入れ、住民に分かりやすく公表していくことをお願いいたします。

2点目の質問をいたします。第7次総合計画策定にあたり、住民参加の計画策定が求められると思います。特に町の将来を担う若者の参画が必須であると考えます。いかがですか。また、公募により若者のプロジェクトチームを編成し、行政側がマネジメントしていくというような考え方はないでしょうか。

○議長（高橋正博君）

企画財政課長 鳥井基史君。

○企画財政課長（鳥井基史君）

先ほど申し上げましたとおり、総合計画の策定判断につきましては、まずもって1月以降を想定しておりますが、策定となった場合には、三木議員のおっしゃるとおり、将来の土庄町を担う若者を含めた住民の参加は重要であると認識いたしております。

総合戦略の効果・検証において、令和2年度からの第2期総合戦略策定に向けて戦略会議を開催した際には、若い方も委員に参画いただくなど各方面の方から幅広くご意見をいただいているところでございますので、そのような場の活用も含めて検討いたしたいと考えております。以上です。

○議長（高橋正博君）

4番 三木俊明君。

○4番（三木俊明君）

ありがとうございます。今までの各計画策定時において住民参加、パブリックコメントの募集等を行っていることは理解しておりますが、あながちコンサルまかせの感が否めないと思っております。今、コロナ禍の中、将来に不安を抱きながら、何とかしなければならないと思っている若者がこの町に必ずおります。行政と住民が一体となってわが町の将来を語り、実効性のある政策を策定していただきたいと思います。また、今回の策定にはコンサル任せではなく、町職員自身の言葉とマネジメントで進めていただくことを切にお願いします。そうすれば行政と住民との距離が縮まり、同じ問題意識を持って進めていけるのではないかと考えております。事業の実施の判断は1月以降を想定しているとのことではございますが、アフターコロナは必ずやってきます。町の将来像

を描く重要な計画ですので、今から取り組んでも決して早すぎることはないと思っておりますので、ぜひとも積極的な検討をお願いしたいと思います。

3点目の質問に移ります。昨年度より小豆島町主体の「小豆島地域ブランド戦略」なるものがわが町にも参画しておりますが、今後の総合計画を策定するのであれば大きな影響があると思われれます。この戦略の概要と執行部の現時点でのお考えをお示してください。

○議長（高橋正博君）

商工観光課長 蓮池幹生君。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

それでは三木議員のご質問にお答えいたします。

小豆島ブランド推進委員会は、令和元年度に小豆島町が単独で設立した団体であり、土庄町は令和2年度から当委員会に加わっております。

三木議員ご指摘の「小豆島地域ブランド戦略」は、当委員会で策定されたものであり、小豆島の商品や観光資源を1つのブランドとして捉え、小豆島が一体となって「島の稼ぐ力」を育くみながら、活力のある島の成長を目指すものであります。

また島の産業を支える「食品産業」と島のイメージを育てる「観光産業」の連携を強化し、デジタルインフラなどを活用しながら、地域事業者が自らの手でイノベーションに挑戦できる仕組みと自走組織を創出することを使命としております。

現在は、コロナ禍における影響、また事業の各論における疑義などを踏まえ総合的な観点から検討している段階であります。小豆島町や当委員会、また事務局であります商工会などとも協議しながら、町としての今後の方向性を検討してまいりたいというふうに考えております。

○議長（高橋正博君）

4番 三木俊明君。

○4番(三木俊明君)

今年度予算で1800万。国の補助が2分の1ありますので、実質900万ですか。それでも貴重な財源を、浄財を使うこととなります。この戦略は全くもってベンチャーであって冒険であります。費用対効果が不透明な、行政が最も苦手とする分野であるのではないだろうかと思っております。この計画の中でわが町が決して埋没をしないように、商工会、関係企業などとの意見をいただき、進めていくのであれば、十分な町としての決意と戦略を持って決定していただきたいと思っております。

4点目の質問に移ります。町長お願いいたします。三期目、町長、先ほど出馬の表明をされました。三枝町長は第7次総合計画を策定するとすれば、今現在

どのような町の将来ビジョンを描き、町民に対して何を求め、何を発信していくのか明確にお答えください。

○議長（高橋正博君）

三枝町長。

○町長（三枝邦彦君）

三木議員の質問にお答えしますが、第7次の総合計画ということでございますが、先ほどから鳥井課長が申しましたように来年1月以降、これは作ったほうがいいのかと思っておりますし、それ以降に判断をするべきかなと。と申しますのも、国のほうも絶対しないといけないというのじゃなくて、もしするんであればみたいなそういう方向性が変わっておりまして、やはり地方の独自性、重要性っていうのが今後も、もっともっと求められる、そういう中においてですね、グランドデザインがあったりだとか、今土庄町でもやっております。そのあたりを実際伸ばしていくのかという部分と、この7次については慎重に考えて、例えば4年間の計画であるとかそういうの考える必要があるのかなと思っております。中身ですけど、中身については、コロナ禍の後、たぶん来年の1月以降はそれなりには元に戻るんですけども、コロナの後の生活環境ってだいぶ変わってきますから、そのあたりの土庄町の位置づけっていうのはこれから重要になってくると思っておりますし、これから歴史も振り返りながらですね、先ほどちょっと見てきたんですけど、江戸時代って3000万~3300万人おったんですね。小豆島は1700年ぐらいに3万人におりました。0.1%です。ということは今の人口になおしたら12~3万人小豆島にいないといけない。ただ、なぜこんな少ないのかっていうのを検証する必要、どこでどうなって減っていったのかっていうことから始まったりとかですね、農村歌舞伎にあたっても、肥土山の蛙子池ができて、それから歌舞伎が始まった言われてるんですけども、当時は30カ所ぐらい島の中あったと。今は中山と肥土山だけです。これの検証を今後どうしていったらいいのかとか、これが当然観光にも結び付き、人口の定着とかですね、いろんな方面でこれから考えていく必要があるのかと思っておりますので、そういったのもですね、もうちょっと研究しながら第7次については、コロナ禍の後の生活、それから土庄町がその中における立ち位置とかですね、そのへんは、これから盛り込んで、もしするんであれば、そういうふうにする必要があると考えております。よろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（高橋正博君）

4番 三木俊明君。

○4番(三木俊明君)

先ほどもお話をしましたが、このコロナ禍で大きく社会生活は変容しております。新たな計画を町民とともにつくっていくのが是であると私は考えます。

十分検討していただきたいと思います。

次の質問に移ります。不燃ごみ最終処分場計画の進展についてであります、住民生活に大きな影響があり、町の最大の懸案事項である灘山地区不燃ごみ最終処分場計画は、昨年12月定例会の私の質問に対して町長より、再度慎重に調査、判断するとの答弁があり、その年末にこの計画を休止する決定をすることとなりました。

その後、半年が経過いたしました、何ら進展した様子は見られず、議会に対しても具体的な報告もないので、4点ほど質問をいたします。

まず1点目、休止の判断から現在に至るまでの経過について説明を求めます。

2点目、町長の諮問機関である施設整備推進会議から新たな提案はあったのか。

3点目、執行部において町内で新たな候補地を選定をしているのか。

4点目、町長は執行部と議会とが一緒になってこの問題に対して進めると答弁をしました。その考えに変わりはないですか。

以上4点、最後の町長の考えについては担当課長との質問が終わった終了後お聞かせください。

○議長（高橋正博君）

住民環境課長 堀康晴君。

○住民環境課長（堀康晴君）

三木議員のご質問にお答えいたします。

昨年、12月24日に、土地交換協議の相手方地権者と協議を行い、一旦、区切りということで、交渉は休止といたしました。

その後、協議を進めていた灘山の土地につきましては、昨今の海面上昇などへの懸念から、海拔の比較的高い別の土地の調査を開始しております。また、施設整備推進会議は、昨年11月12日以降、会議は開催されておられません。現在は、執行部におきまして候補地の選定を進めており、教育民生委員会では、具体的な内容につきまして報告はできておりませんが、皆さまのご意見をいただきながら、進めていきたいと考えております。以上です。

○議長（高橋正博君）

4番 三木俊明君。

○4番（三木俊明君）

再質問をいたします。1番目の回答でございすけども、海面上昇の懸念などははっきり言いまして、当初より判断できたことだと思いますが、執行部の考えはあくまでも町内で処分場を建設するということに理解してよろしいですか。また、そうであるならば計画のタイムスケジュールを示していただきたいと思います。

○議長（高橋正博君）

住民環境課長 堀康晴君。

○住民環境課長（堀康晴君）

三木議員の再質問にお答えいたします。処分場の建設は将来的には必要なことだと理解はしております。現在のところ、不燃物の島外搬出などさまざまな方法を模索中でありまして、それらの中から計画を策定したいと考えております。以上でございます。

○議長（高橋正博君）

4番 三木俊明君。

○4番(三木俊明君)

さまざまな方法を模索中であると言いましても、それほどこの町のごみ処理の問題について選択肢があるとは思えません。いずれにしても将来につけを残さない、町としての最善の計画を早急に示していただきたいと思います。

2つ目の再質問でございます。推進会議は開催されていないということですが、今後、開催され、新たな提案を受ける可能性はあるのか、また12月の判断後、執行部より、町よりですね、新たな提案を要請したことがあるのかお伺いします。

○議長（高橋正博君）

住民環境課長 堀康晴君。

○住民環境課長（堀康晴君）

再質問にお答えいたします。施設整備推進会議は、町長が設置したものでございます。また、議会の皆さまにはまだ具体的な案が、明確にはできておりませんので、提案は要請しておりません。以上でございます。

○議長（高橋正博君）

4番 三木俊明君。

○4番(三木俊明君)

それでは、この質問については後ほど町長のほうでお答え願います。

3つ目の質問でございます。現在、候補地の選定を進めており、ということですが、候補地選定後では我々としては今までと全く変わらないのではないのでしょうか。議会の意見を聞くのであれば、選定プロセスの中で幅広い考え方、意見を求め、協議し、町として確固たる方向性を決定して進めていくのが正しいやり方ではないかと思いますがいかがですか。

○議長（高橋正博君）

住民環境課長 堀康晴君。

○住民環境課長（堀康晴君）

再質問にお答えいたします。議会の皆さまとは十分に協議、報告をして進めていきたいと考えております。以上でございます。

○議長（高橋正博君）

4番 三木俊明君。

○4番(三木俊明君)

重要なことは行政と議会が町民の生活を守るため、知恵を出し合い、協力しあって難題を解決していくことだと考えます。住民の多くの皆さんはそれを望んでおります。今後は計画作成プロセスの中で報告ではなく、協議を重要視して進めていただきたいと思います。お願いいたします。

最後に町長に質問をいたします。町長は執行部と議会が一緒になって進めると12月の議会で答弁いたしました。その考えに変わりはないでしょうか。

○議長（高橋正博君）

三枝町長。

○町長（三枝邦彦君）

はい。今のところ全然変わっておりませんので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（高橋正博君）

4番 三木俊明君。

○4番(三木俊明君)

それではこの半年の間、執行部より議会に対して経過報告、具体的相談はなかったんですが、町長は担当課に対してどのような指示を出し、議会との対応をどのようにすべきと担当課のほうに指令を出しましたか。

○議長（高橋正博君）

三枝町長。

○町長（三枝邦彦君）

今年ですね、1月の22日だったと思います。教育民生常任委員会でもお話を皆さんにしたと思います。そのときにですね、不燃ごみの処分については、選択肢が3つしかありません。町でつくる、島外へ持っていく、もう一つ3つ目は島内で完結をする。この3つしかないと思っています。担当課のほうにはですね、当然これ全て税金の中なので、どの3つのうち順番もそうなんですけれども、この分だったらこのぐらい費用かかってこうなりますっていうのをすべてにきちんと答えを出してですね、そのあと、議会のほうにもそれをお示ししてほしいという話はしております。流れでいくと、9月の議会、次ですね、間に委員会があるじゃないですか。そのときにはたぶんお示ししてですね、皆さんと協議を諮っていくと、そういう流れになろうかなと思っています。

○議長（高橋正博君）

4番 三木俊明君。

○4番(三木俊明君)



再質問の 2 つ目の質問に対してもお答えをいただいたと。町内でつくる、島外搬出、島内完結、この 3 つということと考えていただけたということが明言されました。ということですね。ありがとうございます。その中に議会としても協力し合って、知恵を出し合っていきたいと思います。

それでは最後の質問でございます。施設整備推進会議が昨年より機能していないようですが、町長は今、施設整備推進会議に対してどのような考え方を持っておられますか。

○議長（高橋正博君）

三枝町長。

○町長（三枝邦彦君）

施設整備推進会議でございますけども、実は任期は 2 年ということで、今年の 6 月で任期は自動的に切れます。当初からこれについては、最終処分場の話があったりだとか、それ以外にも少しあったんですけども、協議をしていたということで委員会を設置しました。途中、去年ですか、ああいう形になって当然しておりません。今後ですね、施設整備推進会議のメンバー若干変わって、一人辞めたのかな、ほとんどそのままなんですけども、あの肩書きのメンバーでいくと結構いろんな情報も入るかなと。ただし、それは今後話の流れです、どうしてもこれはあの方たちの意見も聞いたほうがいいなということであれば、再度立ち上げてやるべきかなと。今の現時点では、そこまでは今のところは考えておりませんので、議会と執行部のほうでまずはやっていくべきかなとは考えております。

○議長（高橋正博君）

4 番 三木俊明君。

○4 番(三木俊明君)

それでは町長のお考えは議会と執行部で協議し合ってやっていると、問題解決していくということで進めていくということが基本的な考え方ということでございます。ありがとうございます。

関係ない言うたらあれなんですけども、12 月、町長選があります。町長の熱い言葉を町民に伝えることが重要でないかと思えます。選挙になりますと色々な話もありますけども、町民が期待しているのは候補者の熱い思いを、どちらの候補者になるか分かりませんが、どちらと申すてもちょっと言い方が悪いかもかもしれませんが、熱い選挙戦を期待しております。

以上で質問を終わります。